



昭和十九年十月

國家資金計畫二關スル參考案

(其一)



國家資力研究所

Handwritten notes and stamps, including a box containing '2009' and a circled '2'.

名大  
338.  
Ko 4  
1  
310



經濟資料センター

Systematische

序

本稿ハ大蔵省總務局ヨリ当所ニ対シ内示セラレタル「現行資金計  
画編成要綱」ニ就キ論議ヲ重ネタル際ノ一産物ナリ。

資金計画が如何ナル国家計画ヨリモ経済学的分析カヲ要求セラレ、タ  
メニ学界論議ノ中心ヲ此処ニ形成スル觀アルハ、寔ニ当然ト云フベキナ  
リ。シカレドモ公表セラレタル論議ノ状況ハ未ダ吾々ヲ満足セシムルモ  
ノニ非ズ、ソノ根本的ナル矣ハ第一ニ国家資力ノ概念規定ニ於テ使用價  
値ノ観突ト價值ノ観突ガ混合セルコト、第二ニハ資本ト所得ノ區別ノ不  
明瞭ナルコト、從ヒテ資本ノ見地ヨリスル資金計画ノ結果突ノ所在ヲ曖  
昧ナラシムルコトニ非ザルヤ。

資力概念規定ノ混乱ノ甚ダシキハ、資金ハ物量ヲ計算スル手段トシテ  
ノミ観念セラル、ニアリ、又ヤ、進ミテ財体系ト資金体系ヲ別個ノ体系  
トシテ観念スル人々モ、ソノ關係、背離ヲ示スコトニ於テ根本的欠陥ヲ

經濟資料  
388.11  
Ko43  
1

呈露スルモノアリ。吾々ハ昨年未以乘財貨ノ生産。消費ト云フ人觀生活  
永遠ノ循環構造ト価値——貨幣信用ノ歴史的。立本構造ガ資本ノ運動ヲ  
通ジテ結節サレ全体トシテ有機的相互關係ヲ形成スルモノニシテ「資力」  
ハ内ニ統一ト背反ヲ含ム概念ナリト規定シ来レルモノナリ。(詳細ハ第七  
節参照) 以上ノ明確ナル把握ナクシテ總生産物価格ト純価値量。減価償  
却費ト修繕費。國民所得ト潛在購買力。性質ヲ區別シ難カラズ。又  
国力ノ判定ト物価水準維持ノ關係モ規定シ難キニ非ザル。コノコトハ  
所得ト資本ノ關係ニ及ブ。

資本ト所得ノ關係ヲ明ラカナランムルコトニヨリ所得配分ガ所得ノ資  
本ヘノ転換タルコトノ意味ヲ示スコトナリ。コノ關係ニ於テ。尙題ノ中  
心矣ガ貯蓄。投資ノ均等化ニアルコトヲ最モ力ヲコメテ明ラカニスル要  
アリト信スルモノナリ。

コレニヨリ資金計画ガ目的トスル計画的価格水準維持ト云フ現下ノ防  
禦第一陣ノ構築ノ任務ト第二陣ヘノ後退ニ於ル尙題ノ所在認識ヲ明ラカ

ナラシムベシ

資金計画ハ「配分」——投資貯蓄ノ均衡——ニ於テ強引ニ自己貫徹ヲ要  
請セラルルモノナルコトハ論ヲ俟タザルトコロナリ。從ヒテ。本業ハ配  
分ニ於ケル自己貫徹ノ実践方策トシテ。金融計画。並ニ組織計画ニツキ  
若干ノ尙題ヲ提起セルモノナリ。金融計画ノ弱性ハ不可避的ニ「配分」  
ノ貫徹ヲ不能ナラシムベキモノアレバナリ。

第三陣堡壘ハ資本維持——主産力保持國民生活水準維持ノ觀英ヨリ新  
クナル均衡設定ヲ目指スモノナリ。

以テイブレモ吾ガ敬愛スル資金計画当局ニヨリ解決希ミノ事項ト届ズ  
ルモ。為念。吾々ノ微意ヲ述ベ御参考ニ伏セント願フモノナリ。

又本課題ニ對シテハ当研究所ニ於テ鋭意研鑽セラレ。並テ研究所業ノ  
決定モヤルベシト信セラル。際。由寄蒙權教未日賜ル所員各位ニ對シ若  
干ノ討論資料ヲ提供セントノ趣旨ヲモ併セテ示サントスルモノナリ。

渡辺 亨 惠子

概説

本案ハ経済期間ヲ一ケ年トセルモノニシテ、カッ計画ハ年次計画トス、  
但シ金融計画ハ四半期計画トナス、  
本案ノ目標ヲ以下ノ諸点ニオク、

一、財政金融基本方策要綱トシテノ趣旨ニ基キ、生産政策トシテノ資金計画  
タラシムルコト、

資金循環ノ中心実ガ、資本ノ運動ニ在ルコトニ着目シ、生産力ノ維  
持、拡大ヲ資本維持ノ面ヨリ確保セシメ得ルモノヲラシムルコト、

最初ニ資本配分ヲ行ヒコレヲ起テ資金ノ循環ヲ追求スルコト、

一、自由競争ニヨル価格決定ニ代ル価格政策ノ規準ヲ資本、並ニ所得ノ

配分トニ置ク、本案ハ規準維持ノ方策トシテ、關聯ニ於テ各種用途別業

別価格ヲ示シ、カッコレニヨリ供給總価格ヲ測定スルコト、

一、國民貨幣所得ノ總額並ニ其ノ分配ノ体様ヲ測定シ併セテ其他購買力

ヲ推定スベキコト、前項供給總価格ニ対スル貨幣給量ヲ測定スベキ  
コト、

一、所得配分ハ資本配分ト対応シ、本案ノ起動力タルモノナリ、所得配分

ノ基準ヲ次ノ点ニ置ク、國民経済ノ再生産運行ノバランスヲ保持セ

シムルコト、特ニ國民生活維持物資ヲ差引ケル餘剩ヲ拵ゲテ或等用

呂生産力ニ転換セシムル生産者計画ニ対応シ、必要生計費ヲ除ク餘

剩購買力ヲ拵ゲテ軍需購買力ヲラシムルト共ニ、軍需購買力ノ限度

ヲソノ対象クル物資、利益ノ価格維持トシテ、機動力ヲ保持セシム、

バキ餘剩力ヲ保持兩聯セシムルコト、

一、所得ノ資本化及ヒ軍需購買力ヘノ転換、並ニ各種経済單位間ノ資金

収支ヲ規定スルタメ金融計画ヲ確立シ全計画ノ最モ実践的ナル課題

ノ解決基準ヲ得ルコト、

一、資金計画ト財政、金融諸統制法令ト、兩聯ヲ明カニシ、計畫遂行機

関ノ性質ヲ規定スルコト、

金融計画ニ基キ資金計画実行ノ全組織体系ヲ確立スベキコト

本業ノ基本目標ノ参考資料トシテ以下ノモノヲ附ス

一、本計画案ハ價值、貨幣、資本体系ノ順当ナル循環ヲ目的ト為スモノ  
ニシテ、生産諸計画（物資、勞務、技術、交通等）ノ對象トナス、  
物、使用價值、生産力ノ諸体系設定トハ別箇ノ範疇ニ屬ス、故ニ  
後者ハ別途總經濟循環表中ニ位置ヲ示ス

一ノ目標達成ノタメ本業ハ次ノ六部ヨリ構成サル、  
第一部 貨幣資本配分計画

固定資本配分計画

設備資金計画ノ事業部門

設備資金ニ対スル官公補助額

（現物貸與方式ヲ含ム）

運轉資本配分計画

運轉資金ノ部門別配分

第二部 産業別供給生産物價格決定計画

一ノ用途別 農業生産物

〃 鉱業生産物

〃 工業生産物

〃 交通 通信

〃 運輸 倉庫 生産物

又配給部門用益

雑

自由業

官公サービス

3. 年生産物以外ノ供給物

第三部 國民總需要量判定

一ノ國民所得トソノ分配体系

- 一 国民所得以外ノ追加購買力
- 二 企業ノ經常支出

第四部 配分計画

- 一 配分バランスノ設定  
——貯蓄投資ノ均衡設定——
- 二 財政支出項目別表示
- 三 産業支出項目別表示
- 四 国民消費項目表示
- 五 予備貯蔵項目

第五部 金融計画

- 一 貯蓄計画（租税ヲ含ム）
- 二 投資計画（公債ヲ含ム）

三 通貨計画

附 追加投資ノ影響測定

第六部 組織計画

- 一 資金計画遂行機関トシテノ金融機関体系
- 二 政府貨幣收支組織
- 三 企業貨幣收支組織
- 四 資金計限ト金融諸法令トノ関係体系表示  
第七部 経済省組織成表（参考資料）

第一部

貨幣資本配分計画

貨幣資本（事業資金）配分ニ於ケル第二部、第三部、第四部、第五部ノ各計画ハ同時決定ノ性質ヲ有ス

資本ノ部門別配分ハ計画期間ノ全關係ガ決定セラルベキ出発点ナリ。貨幣資本ノ配分ハ現物資本ノ配分ニ受身的ニ規定セラルベキモノニシテ、直接ニ生産諸計畫ニ追隨ス。(生産財、労働力ノ動員配置、能率増進、資材節約、生産期間短縮、新設拡張)

又、貨幣資本配分ノ立場ヨリ主張スベキ莫ハ、軍需材生産投資、未完成財生産投資、固定財生産投資ノ全体ニ於ケル釣合ガ保持セラル、コトナリ。

又、貨幣資本配分当局ノ義務ハ、貨幣資本側ヨリ、生産計画妨害ヲ決定的ニ阻止スルニアリ。コノ莫ニ閉シテハ、更ニ第五部ノ金融計畫ニ於テ細目的ニ決定ス。

一、固定資本

一、固定資金ハ当該年度ニ於テ回収セラレサル資金ニシテ固定設備並ニ無体資産ニ按テ下セラル、モノナリ。

土地 (生産用)

諸権利

建物

機械 耐用年数一年以上ノ器具

固定資本中ニ土地、諸権利ヲ加ヘルコトハソレガ年生産物ニ非ザルコトニヨリ、一方ニ國民所得以外ノ追加購買力ヲ形成スルコトニ着目シ、配分ニ於テ、コレガ対策ヲ考究スル要アリ。

固定資金總額ハ右ノ諸財存在量 (新規生産物並ニ耐用物) ニ極格ヲ乘ズルコトニヨリ得ベキモノナリ。

極格決定ハ第三部ニ於ケル方法ニヨリ生産費ニ平均利潤ヲ加ヘテ得ラルベキナリ。

又、固定資金ノ事業部門別配分基準

農業

- a. 土地改良設備費中農業部門内ニ於テ回收ヲ予定セラルベキモノ
- b. 公共補助ノ性質ヲ有スベキモノ
- c. 其他

鉱業

- a. 鉱業用設備、固定設備、新設拡張改良費等ノうち、鉱業部門ニ於テ回收セラルベキモノ

補助金

工業

- 軍需品工業、生活必要品工業、生産財工業部門別ニ鉱業ニ於ケルト同様ニ算出
- 交通、運輸、通信

新設大修繕ノ結果

配給流通部門

物品販売業、設備金融保険業、公共配給機関

雑業、許容額

自由業、許容額（財団法人等）

3. 新規設備カ極力抑止セラルベキコトハ第四部ニ全体再生産ノ関係ニ於テ明白ナリ。

4. 新規設備費中、補充費（減価償却費）ト新投資分充当トノ関係ヲ明ラカナランムルコト

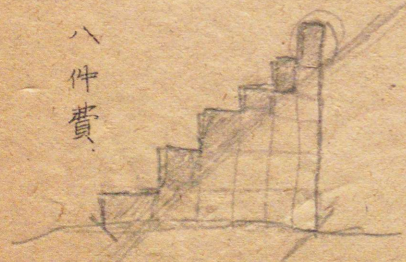
二 運転資本

1. 運転資本ハ次ノ範圍ト為ス

生産部門

- 原材料、燃料、電力購入費、器具費、労賃、其他八件費
- 土地、建物、機械使用料、資本利子

500



18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30



流通部門 (証券並ニ商品)

社入費

流通上ノ諸費用

(商品並ニ貨幣資本ノ流通媒介)

文化音楽福利部門 (雜業自由業)

2 運載資本ノ總額ハ右ノ「諸要因」ヲ各事業部門別ニ算出シ「価格」

ヲ乘ジタルモノナリ。

○ 右ハ「諸要因」生産計畝ニ基キ流動資材並ニ勞働力、所要量ヲ

決定スルコト、並ニ配給計畝ニ基キ製品ノ消費者ニ渡サル、取

次段階ヲ決定スルコト、

更ニ右ノ諸決定ガ遂行セラルベキ諸條件ガ確保セラル、コトヲ

前提トナスモノナリ。

○ 「価格」ハ第二部ニ於ケル手續キニヨリ決定セラルベキモノナリ。

○ 尚、運載資金ニソキテハ經常費、本計画期増加分、本計画期前

減分ヲ各事業部門別ニ決定、

○ 必要ストック量ハ生産計畝ノ決定ニヨリソレニ応ズル運載資金

ヲ決定スルコト

○ 運載資本ハ短期金融部面ニ由聯シ資金ノ廻転率ト直接由聯決定

セラルベキモノナリ。

資金廻転率ハ第五部金融資金計畝ニ於テ概列ス、一定時期ノ断

面ニ於ケル運載資本ノ構成把握モ第五部ノ關係事項トナス。

3. 運載資本ノ部門別配分

農業

鉦業

工業 (三部門別)

交通運輸通信

配給雜業

自由業

第二部

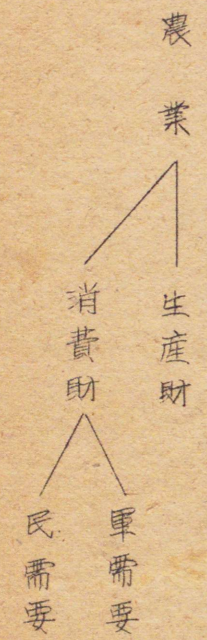
價格水準決定計畫

本計畫ハ 第一部 第三部 第四部 第五部ト同時決定ノ性質ヲ有ス

① 價格決定セラルベキ總生産物ハ該計畫期ニ於テ生産セラルヘキ生産財 消費財 軍需材ノ總量 (物資並ニ用役ヲ含ム) 並ニ輸出入 移出入並ニ既存資本動員ヲ含ムモノナリ

② 價格水準決定ハ生産ト消費 供給物資ト需要購買力 投資ト貯蓄ノ間ニ釣合アル關係ヲ示サザルベカラズ  
当座 價格水準決定基準ハ必要産業ノ資本ノ循環ヲ円滑ナラシムルコト 即チ前貸貨幣資本ノ回收ヲ支障ナカラシムルコト (及び労働資源ノ維持再生産ヲ保障スルコトニ在リ)

- 2 従ヒテ各事業部門別ニ前貸運搬資金ノ回收並ニ總固定資本 (註)ノ減価却分ヲ加算シ実績ニ基ク部門別平均利潤ヲ更ニ加ヘルコトニ依リ算定ス (原価構成主義)
- 3 生産物ノ用途別分類ヲ行フニ当リテハ各部門ヲ該定シ總生産額ヲ集定シ 更ニ之等生産財 生活財 軍需財ニ分類スルコト
- 4 間接税ハ生産者課税 消費者課税共ニ各部門別生産価額毎ニ算定スベキコト
- 5 費用原則ニヨル價格ト公定價格ノ乖離ヲ各部門別ニ推定スベキコト  
コレニヨリ價格差補助金ノ決定基準ヲ得ルコト
- 6 生産物部門別用途別供給總価額



gross

金融保険業 倉庫ヲ含ム

其他

雜業

自由業

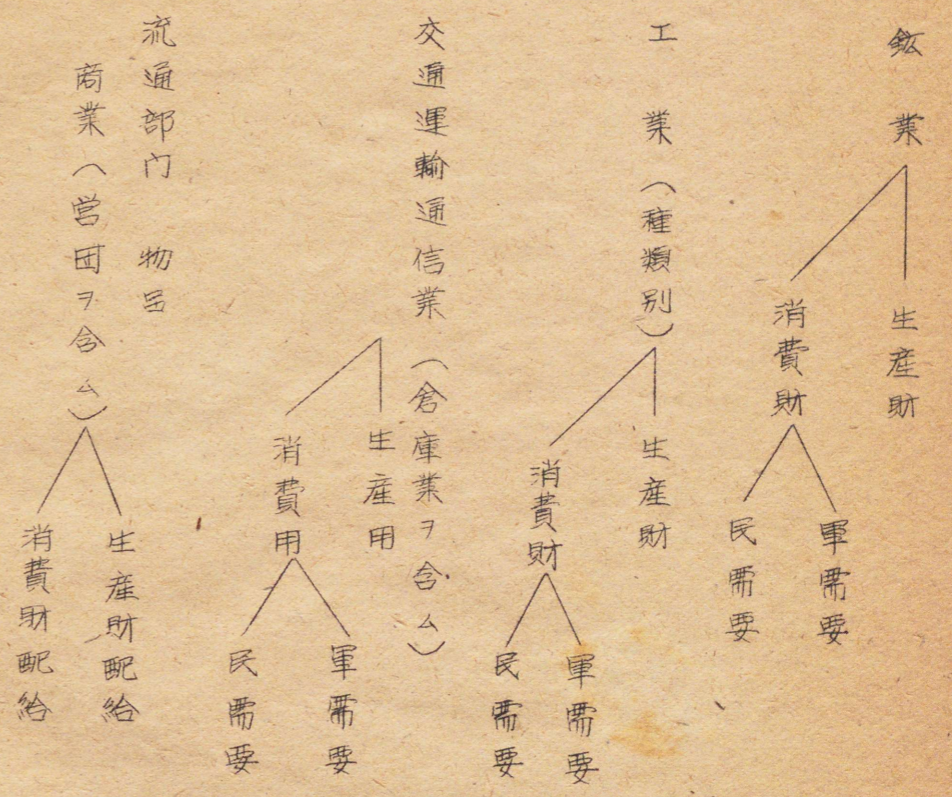
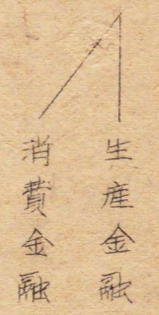
公務業

家事使用人

年生産物以外ノ供給總価格

供給總量ハ總生産物ニツイテノミホメラルベキモノニシテ 國民所得相当分 純価値生産物ニツキテハホメラレ難シ 蓋シ 總生産物ハ財ノ体系ニ屬シ、純価値生産物ハ価値ノ体系ニ屬スル範疇ナレバナリ。

(註) 總固定資本ハ第七部ニ於ケル測定項目ナリ。



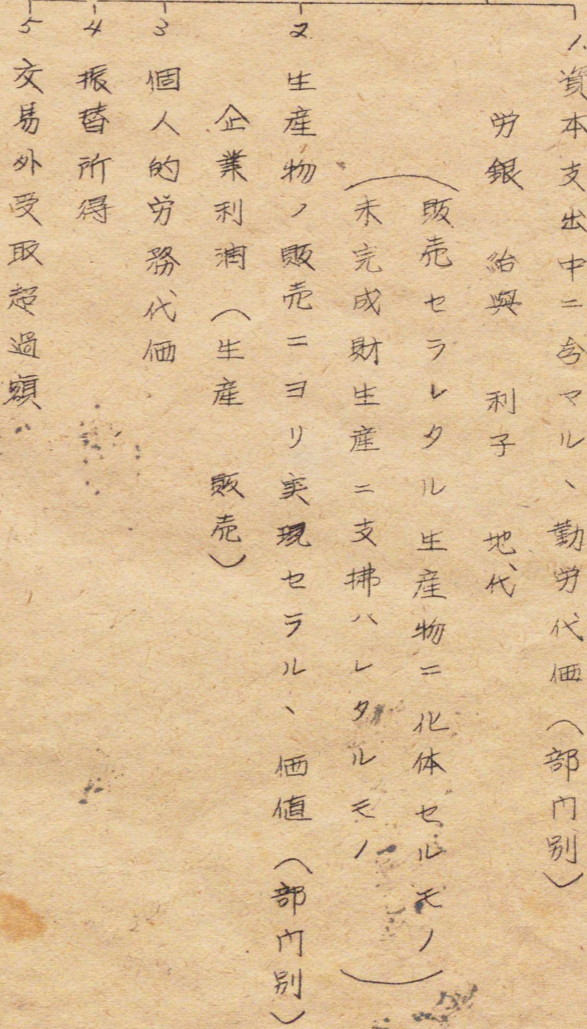
第三部

國民總需要量測定（所得分配計重）

一 國民所得測定

國民所得ヲ次ノ如クニ分類ス

國民所得



國民所得ノ根幹ヲ為スモノハ、資本循環過程ニ形成セラル、純生産物価値ナリ。

純生産物価値ノ算出方法トシテハ、

第一ニ、資本維持ノ費莫ヨリ固定資本減価償却分並ニ運搬資本中ノ物  
的支出費ヲ控除セルモノナリ。然レテ控除ハ同一規模ノ再生産ヲ可  
能ナランムヘク、価値評価ヲ必要トス（インフレーションヨシ時代ニハ  
特ニコノ莫ニ着目スルヲ要ス）

第二ニ、控除ニヨリ資本統制ノ範圍ト所得統制ノ範圍ヲ明ラカナランム  
ルモノナリ。

第三ニ、控除ニ伴フ若干ノ尙題  
ノ、減価償却費

投資固定資本ノ回收部分タルト共ニ單純再生産ヲ維持スル固定、  
財補充資金ヲ構成ス。尙、当生産期ニ於ケル補充固定財ノ償却  
分ヲ總括シテ別途算出ヲ要ス。

又 修繕費

各企業が減価償却費ヲ以テ修繕費ニ充当スル場合多シト雖モ国民経済的意義最ニ別個ニシテ第ニ新投資タルヘキモノナリ  
生産課税ノ間接費

3. 税制ニ変化ナキコトヲ前提トシ、資本維持ノ観点ヨリスレバ、利子 地代 労金ト共ニ回収セラルベキモノナリ。

国民所得算出ノ立場ヨリセバ控除セラルベキ生産財価額ニ含まル、間接税ハ別途算出シ国民所得中ニ加ヘラルベキモノナリ。

4. 利権ヨリノ支出ト資本支出ノ區別ヲ明快ナラシムル要アリ。

国民所得ハ価値ノ形態ニシテ素材的ニハ消費財（生活財、軍需材）ト拡充財ノ合計ニ対応スルト云フベキモノナリ。

資本支出トソノ循環過程ニ於テ形成セラル、所得ノ外ニ個人的労務供付対価アリ、コレヲ第ニ次所得トナシ算出スルモ、用途別分類ニ

於テ生活必需以外ノ生産財トシ算出スルモ経済構造的把握ニ支障ナカルベシ

又 国民所得以外ノ購買力

生産資本ノ遊離

商業資本ノ遊離

者在購買力

退職貨幣

過去年度ノ貯蓄

退職財 土地販売代金

家屋販売代金

推利譲渡

資本ノ遊離ハ

イ 生産諸設備ノ用途転換

生産諸設備売却代金總額ハ新購買力ヲ形成スレドモ、用途

Handwritten notes and a rectangular stamp with illegible characters.

取扱ニ伴フ価値減少ニヨリ供給側ノ總額ヲ形成セズ。  
口 商品取引資本及び証券取引資本ハ企業整備ト共ニ完ク遊離シ  
購買力ヲ追加ス。

潜在購買力

イ 各人ノ貯蓄ハ金融機関ヲ通シテ投資セラレ在ルモ、各人ノ年  
所得ヲ吸収セラル、結果貯蓄引当盛行使ハ投資ヲ回収セズシ  
テ支拂ハレザルベカラズ、即チ追加信用ニヨル購買力職與ノ  
潜在ヲ示スモノナリ。

ロ 貨幣ガ一般的妥當の購買力ヲ表示スルモノナレトモ一切ノ逐  
漸的ハ購買力ヲ有ス、特ニ砂糖、<sup>煙草</sup>布類等ガ交換手段トシテ登  
場スルコトニ着目セラルベシ。

ハ 固有財産拂下ゲタルト、民間財産ノ移転タルトヲ向ハズ、相  
当額ノ資金移動ハ追加購買力ヲ形成スベシ。

二 国民所得分配態様ノ測定

職能別地域別国民所得分配態様ノ測定ハ所得再配分計畵ノ基礎ヲ  
ナスベキモノナリ。「價格ノ不均等騰貴ニヨル偏在購買力ノ測定」  
勞金給與利権ノ統制外領域ニ於ケル増大ヲ着目スベキコト、  
所謂「自由労働者」ノ勞賃

近郊農村ノ收益

下請業主ノ所得

三 国民所得分配決定計畵

一 賃金統制 経営統制ニ於テ、單位價格ノ統制ヲ見タルモノナルモ、  
總需要ノ測定ト次ノ配分計畵ノタメ分配ノ框ヲ計畵スルコト、  
二 業種別ニ次ノ要素ノ總價格ヲ決定ス。

賃金 事業主所得

給與

利子

地代  
配当

第四部

配分計画

準備

- 一 第一部 第二部 第四部 第五部ト、関聯ニ於テ決定セラルベキモノナリ。
- 直接ニハ第三部ノ国民所得其他購買力ト第二部ノ用途別生産額ノ實現ヲ媒介シ、第一部ノ貨幣資本支出ト、関聯ニ於テ所得ノ資本へノ転換ヲ規定スルモノナリ。
- 二 配分計画ニ於テ第二部供給總価格ヲ維持スルタメニハ需要超過額ヲ吸收前提シタ上ニテ需給バランスヲ設定スベキモノナリ。
- 三 資本配分ト共ニ所得配分ガ、資金計画ニ於テ國家意志ノ勸クニ基キナリ。而シテコレニヨリ価格ノ構造ハ決定セラル、トコロナリ。自

1920

由經濟ニ於テハ資本及び労働ノ移動自由ニヨリ經濟ノ釣合ガ設定セラレタルニ正ニ対応スベキモノト云ヒ得ベシ

配分ト如何ニヨリ価格体系ハ不可避的ニ龜裂ヲ生ゼサルヲ得ズ

体系維持ノ不可欠的條件

- イ 國民消費資金（財政中ノ軍需以外ノ消費支出ヲ含ム）ガ國民生活資料總価格ヨリ予備貯蓄繰越額ヲ差引ケル額ヲ超ヘサルコト  
（更ニ地域的バランスヲ保持シ得ルコト）
- ロ 國民所得ヨリ國民消費資金ヲ差引ケル残余ノ額ヨリモ、軍需財購入費、未完成財へノ資本支出、価値廢棄的諸費並ニ新投資々本ノ合計ガハミ出ササルコト。

以上、最少限要求トシテイロノ條件ガ保持セラレ得ザルニ於テハ価格体系維持ハ悲惨ニモ哀レナル末路ヲトグルハ不可避的運命ナルベシ

物価騰貴ハコノ莫ヨリ不可避的ニ起ルモノニシテ信用膨張ハソノ物  
 価騰貴ノ結果ニシテ原因ニ非ザルコトハ銘記セラルベキナリ。  
 バランス保持ノ條件ハ次ノ如シ。

價格水準維持ノ最少條件

A = 固定財蓄積 B = 流動財蓄積 C = 生活財蓄積

$$O_a = \sum K_2 + A \cdot S_1 a - \{ \sum K_2 - (K_{1a} + L_a + S_{2a} + T_a) \}$$

$$(O_a) = K_{1a} + K_{2a} + E_a < A + B + C$$

$$O_e = \sum K_1 + B \quad B = S_1 e - \{ \sum K_1 - (K_{2c} + L_c + S_{2c} + T_e) \}$$

$$O_d = (\sum S_2 + \sum T) - O_e$$

$$O_e = (\sum S_2 + \sum T) - O_d$$

$$O_f = \sum L + C \quad C = S_1 f - \{ \sum L - (K_{1f} + K_{2f} + S_{2f} + T_f) \}$$

	K		E (0-K)	E			
	K <sub>1</sub>	K <sub>2</sub>		L	S <sub>1</sub>	S <sub>2</sub>	T
A	O <sub>a</sub>	K <sub>1a</sub> K <sub>2a</sub>	E <sub>a</sub>	L <sub>a</sub>	S <sub>1a</sub> S <sub>2a</sub>	T <sub>a</sub>	
B	(0 <sub>a</sub> )	K <sub>1a</sub> K <sub>2a</sub>	E <sub>a</sub>	L <sub>a</sub>	S <sub>1a</sub> S <sub>2a</sub>	T <sub>a</sub>	
C	O <sub>c</sub>	K <sub>1c</sub> K <sub>2c</sub>	E <sub>c</sub>	L <sub>c</sub>	S <sub>1c</sub> S <sub>2c</sub>	T <sub>c</sub>	
D	O <sub>d</sub>	K <sub>1d</sub> K <sub>2d</sub>	E <sub>d</sub>	L <sub>d</sub>	S <sub>1d</sub> S <sub>2d</sub>	T <sub>d</sub>	
E	O <sub>e</sub>	K <sub>1e</sub> K <sub>2e</sub>	E <sub>e</sub>	L <sub>e</sub>	S <sub>1e</sub> S <sub>2e</sub>	T <sub>e</sub>	
F	O <sub>f</sub>	K <sub>1f</sub> K <sub>2f</sub>	E <sub>f</sub>	L <sub>f</sub>	S <sub>1f</sub> S <sub>2f</sub>	T <sub>f</sub>	
T	Σ <sub>0</sub>	ΣK <sub>1</sub> ΣK <sub>2</sub>	ΣE	ΣL	ΣS <sub>1</sub> ΣS <sub>2</sub>	ΣT	

A = 固定財(完成)生産部門  
 B = 固定財(未完成)生産部門  
 C = 流動財生産部門  
 d = 軍需財生産部門  
 e = 官公收入-軍需財購入費  
 f = 生活財生産部門  
 O = 總生産物價格(最終)  
 K<sub>1</sub> = 流動財コスト  
 K<sub>2</sub> = 減価償却

E = 國民所得 L = 生計費 S<sub>2</sub> = 公債 S<sub>1</sub> = 貯蓄-公債 T = 租稅



	FK	CK		E(0-CK)		E(0-CK)			O	
		K1	K2	W	P	L	S1	S2		T
a	FKa	K1a	K2a	Wa	Pa	La	S1a	S2a	Ta	0a
a'	FKa'	K1a'	K2a'	Wa'	Pa'	La'	S1a'	S2a'	Ta'	0a'
R	FKR	K1R	K2R	WR	PR	LR	S1R	S2R	TR	0R
R'	FKR'	K1R'	K2R'	WR'	PR'	LR'	S1R'	S2R'	TR'	0R'
C	FKC	K1C	K2C	WC	PC	LC	S1C	S2C	TC	0C
d	FKd	K1d	K2d	Wd	Pd	Ld	S1d	S2d	Td	0d
d'	FKd'	K1d'	K2d'	Wd'	Pd'	Ld'	S1d'	S2d'	Td'	0d'
e	FKe	K1e	K2e		Ee	Le	S1e	S2e	Te	0e
f	FKf	K1f	K2f	Wf		Lf	S1f	S2f	Tf	
Σ	ΣFKi	ΣK1i	ΣK2i	ΣWi	ΣPi	ΣLi	ΣS1i	ΣS2i	ΣTi	Σ0i

FK = 固定資本  
 K1 = 流動財コスト  
 K2 = 減価償却  
 W = 賃金  
 P = 利潤  
 E = W + P  
 L = 生計費  
 S2 = 公債  
 S1 = 貯蓄 - 公債  
 T = 租税  
 O = 生産額

a = 設備財生産部門  
 a' = 設備財稼振部門  
 R = 流動生産財生産部門  
 R' = 流動生産財稼振部門  
 C = 生活資料生産部門  
 d = 軍需財生産部門  
 d' = 軍需財稼振部門  
 e = 官公收入 - 軍需財購入  
 f = 未完成財生産部門

(最終)

價格水準維持ノ最小限條件

$$Oa \times Oa' = \sum K_2 + (FKa' + FKd' + FKd') + A - (FKa' + FKd' + FKd')$$

$$A = Sa - \left\{ \sum K_2 - \left( \begin{matrix} K_1a + La + S_2a + Ta \\ K_1a' + La' + S_2a' + Ta' \end{matrix} \right) \right\}$$

$$Oa + Oa' = \sum K_1 + B - \left\{ \sum K_1 - \left( \begin{matrix} K_2a + La + S_2a + Ta \\ K_2a' + La' + S_2a' + Ta' \end{matrix} \right) \right\}$$

$$Oc = \sum L + C \quad C = S_1c - \{ \sum L - (K_1c + K_2c + S_1c + Tc) \}$$

$$Oe = (\sum S_2 + \sum T) - (Od + Oa') \quad Od + Oa' = (\sum S_2 + \sum T) - Oe \quad B = S_1a - \{ \sum K_1 - (K_2a + La - S_2a + Ta + K_2a' + La' + S_2a' + Ta') \}$$

$$K_1a + K_2a + W_1a \vee (A + a + c) - \{ (FKa' + FKd' + FKd') + (K_1a' + K_1d' + K_1d') + (Wa' + Wa' + Wd') \}$$

配分計画ニ於テハ以上ノ如キ總体的的合設定ト共ニ各支出項目ノ整理ヲ必要トスベシ、特ニ、財政支出ニ関シテハ、ソノ經濟性質ヲ明ラカニスベキコト肝要ナルベシ、

四ノ 財政支出計画

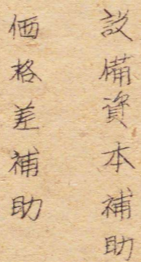
財政支出ハ次ノ如ク分類セラル

- ノ 財政消費支出
  - 人件費支出
  - 物件費支出

又 公企業資本支出

三 民間事業支出費

四 産業補助金



右ノ内(二)及ビ(三)ハ事業資金支出ノ一部ヲ構成シ(四)ノ内設備補助金ハ前貸回收不能ト見做サル、モノニヨリ決定セラルベキモノナリ、

財政消費支出ノ限度ヲ決定スベキモノハ、第一部、第二部ニヨリ、財政消費ニ向ケラルベキ物資並ニ配置人的奉仕總量ノ總額ト照応セラルベキモノナリ、

財政支出ノノニ相当スベキモノハ再生産的見地ヨリスレバ、剰余ヲ以テ処理セラルベキ部分ニ戻シ価値循環的ニハ一回的ニ廃棄セラルベキ部分トスル

五 生活資金

個人、法人所得、支出並ニ官公支出ニ依ル區別ヲ明ラカナラシムルコト

一、生活必需品購入總額 (物資、用役)

人、個人所得ヨリ支拂ハル、總額

又、事業所得ニ依リ支拂ハル、總額

3、財政資金ヨリ支拂ハル、總額

ニ、其他生活用品總額 (物資、用役)

人、個人所得ヨリ支拂ハル、總額

2、事業所得ヨリ支拂ハル、總額

3、財政資金ヨリ支拂ハル、總額

生活資金ニ於テ、ニハ主トシテ經濟ノ再生産ニ貢獻セザル効用ニ屬シ価値的ニハ資本維持ノ條件タラス、生産計画、人的配置計畫ニ於テ極力壓縮セラルベキ部分ナルモ、ソノ存在力予定セラル、上ハコレガ經

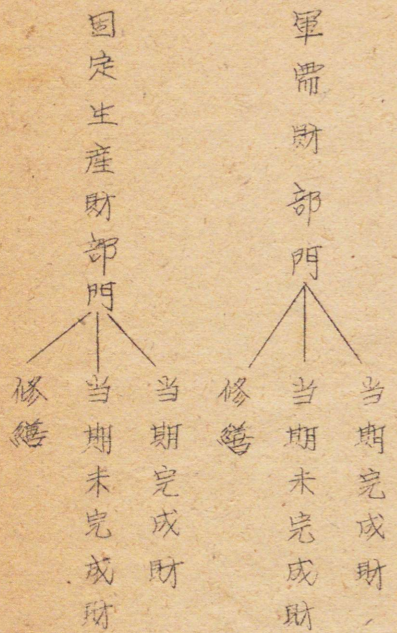
六 産業資本支出

濟的性質ヲ明ラカナラシムルヲ要ス  
即チ配分計畫ニ於テハ、一ノ生活必需品カ生活資料ノ生産力トノ見合ニ於テ決定セラルベキモノナルモ、ニノ其他生活用品總額ハ國民所得ノ剩餘ノ存在ニヨリテノミ許容セラルベケレバナリ

事業資本計畫ニ於テ前提セラレタルモノナルモ、当部ニ於テハ經常投資

ト新投資トノ區別ヲ設クルヲ要ス、

新投資ハ左ノ分割向ニ釣合保持ヲ要スベシ



流動生産財部門  
当期完成財  
当期未完成財  
修繕

生活財部門  
当期完成財  
当期未完成財  
修繕

新投資ノ資本配分ニ変更アル場合ノ經濟組成的影響ニソキテハ補遺ニ於テ示ス如シ(第十七表)

第五部

金融計畫

金融計畫ハ資本並ニ所得ノ配分ヲ実行スル方式ニシテ、第一部並ニ第四部ノ基準ニヨルモノナリ、且ソ金融計畫ハ第六部ノ組織計畫ト一體ニ決定セラルベキモノナリ。

1. 金融計畫ハ所得ヲ政府購買力ニ移転セシムルコト並ニ貨幣資本ニ転換セシムルコトヲ第一ノ任務トナス(貯蓄計畫、租税計畫)
2. 金融計畫ノ第二ハ財政、産業、ノ貸付ヲ決定スルコトナリ(公債計畫、投資計畫)
3. 金融計畫ノ第三ハ前項ニヨル信用割当ニ基キ信用口座ヲ設定スルニアリ、コレニヨリ、財政短期計畫ヲ設定シ、財政計畫トノ關係ヲ明ラカナラシムルモノナリ。
4. 金融計畫ニ於ケル綜合計畫、個別信用計畫ト並ビ通貨計畫ヲ樹立シ、家計並ニ小額取引ノ爲ノ貨幣收支ヲ統制スルコト
5. 追加信用ノ許容ハ全計畫ノ破壊ナリト虽モ配分計畫ノ不貫徹ハ不可避免的ニ物価騰貴ヲ媒介トシテ追加信用ヲ駆立ソル運命ナルヲ以テ、ソノ影響ヲ極力弱メル方策ヲ要ス、但シコノ項目ハ全計畫ニ対シ体系外ノ追加ヲ構成スベキモノナリ。